あしつ 育成だより 8

立教 181 年 10 月 23 日発行
編集 / 天理教芦津大教会育成部

特集　①芦津 道の後継者のつどいレポート
②教会長子弟育成プロジェクトの推進

《親のことば》

信仰とは、信じ凭れ、実行すること

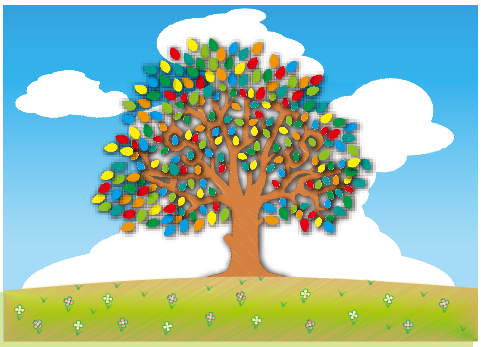
理とは、物事の道理をいうのであります。親神様の理とは、親神様が親神様であられる道理、教祖の理とは、教祖が教祖であられる道理をいうのであります。このことは理屈ではありません。ですから私たちは、教祖のお言葉には絶対に間違いはない真理であることを信じて、教えを実行するうちに、教祖の教えの深さが理解でき、成人へと繋がっていくのであります。

信仰は、信じ凭れ、実行することが基本であるということを、常に心に覚えておいていただきたいと思います。

（立教 170 年「後継者講習会」第 14 次における真柱様お言葉より）

①芦津　道の後継者のつどい開催レポート

もう一歩踏み出すきっかけに



「普段の生活では考えないことを、改めて考えることができた」
「同じ芦津の人のいろいろな意見を聞けて、ありがたい」
「班のメンバーに恵まれて、とても勉強になった２日間でした」

８月 18・19 日、27・28 日、９月１・２日、詰所を会場に「芦津　道の後継者のつどい」を、それぞれ１泊２日で開催しました。対象者は、ご本部で開催された「後継者講習会」と同じ、20 歳から 40 歳までの若者たち。彼らはこのつどいで何を学び、何を得たのでしょうか。

●陽気ぐらしの実践を

このつどいは、20 歳～ 40 歳という「後継者講習会」の対象者に対して、日々の陽気ぐらしの実践ができるよう後押しすることと、来年６月の大教会記念祭へ向け「日々プラスワン」の実行を促すことが目的です。

昨年８月に受講した人は、受講から既に１年が経ち、熱い気持ちが薄れてしまっている人や、定めた心が持続できていない人もいるでしょう。そうした人に対して、改めて神様の御守護に気付き、自分にできる陽気ぐらしの一歩を踏み出すきっかけとして、このつどいは企画されました。また、「後継者講習会」を受講できなかった人に対しては、テーマだった「日々の陽気ぐらしの実践」が、地元に帰って実行できるよう促しました。

●信仰の元一日

初日は、開講式の後、６人１班に分かれてグループミーティング。班分けは同じ世代になるよう設定されており、自己紹介とカードゲームで打ち解けました。その後、「幸せを感じるとき」をテーマに、自らの身近にある親神様の御守護について、シートを用いながら確認しました。

休憩を挟んで、竹内義忠役員が「矢印を自分の心に向ける」をテーマに講話。自身の若い頃の体験談を交え、「神様の御守護を御守護と感じること」の大切さについて話しました。

受講者からは、**「元一日を知ることが、お道の上で大切だと分かった」「これまで出会った人は自分といんねんが似ているところがあったなあ、と感じました」**などの感想がありました。

夕づとめ遥拝の後、食堂で懇親会を行いました。食事は、婦人会が作ったオードブルや冷しゃぶなど。小さな子供たちには、おにぎりやウインナーなどのお子様用プレートが準備されました。

婦人会、青年会の活動紹介ビデオが放映された後、班対抗ゲーム。そして懇親会の最後には、後継者講習会を受講した後、「自分にできる陽気ぐらし」を実践している、芦津の若者のインタビュービデオを視聴しました。

●日々プラスワンの実行を

２日目は、本部朝づとめに参拝。朝食後から託児が始まりました。

午前８時からアイスブレイクを行い、続いて講話「日々プラスワンの実行」。山田道弘役員は、メジャーリーガー・大谷翔平選手の高校時代の話を台に「目標をもって実行し続けること」の大切さを説明し、さらに「記念祭に向けて、それぞれが《日々プラスワン》を実行しよう」と促しました。

受講者からは、**「『心の向きが変われば人生が変わる』という言葉が心に響きました」「『喜ばなければ喜びの種が蒔けない』と聞いて、教会の者が喜ばなければ、信者さんに暗い思いをさせてしまう。喜びの種を蒔けるようになりたいです」「《今の姿より一歩だけ前進》なら、毎日の生活の中に取り入れながらできるかなと思いました」**などの感想がありました。

●自分を見つめるグループミーティング

続いてグループミーティング。まずは「感謝・慎み・たすけあい」で、自分のできていることと、できていないことを、自分に矢印を向けて洗い出します。その上で、今自分がすべき「日々プラスワン」を改めて探して書き出し、それを今後の目標としました。

受講者からは、**「同じことでもみんな考え方が違って、違う視点から物事を見ることができました」「自分に足りないところ、変わらないといけないところが、具体的に分かった」**などの意見がありました。

閉講式では、第１次は大教会長様よりお話がありました。「人のために心と身体を使うことが、人間の本当の生き方。それを実践できる信仰者になってほしい」、「毎日の暮らしの中で、自分にできる陽気ぐらしの実践を積み重ね、来年の創立130 周年記念祭を迎えてほしい」と、参加者に期待を述べられました。

受講者からは、**「自分を見つめ直すいい機会になった。自分が決めたプラスワンを実行していきたい」「正直、心定めをしても継続するのが難しいですが、このつどいに参加して心が引き締まり、勇んで頑張ろうという気持ちになりました」**との意見が見られました。

●教会の未来は人材育成にかかっている

このつどいの企画に携わった山田道弘育成部長は、若年層の育成について、こう語ります。

「育成の現場で感じることは、若者の特性には『熱しやすく冷めやすい』という側面があることです。ですから、後継者講習会や、このつどいに参加した若者たちがその時に得た《信仰の原石》を、磨き、光り輝くものにしていくために、育成する側が時々にそうした場を用意して、根気よく丁寧に仕上げていく必要があります。

今後も、『教会の未来は人材育成にあり』との強い意識を各教会の皆様と共有して、長期的な展望で、教祖 140 年祭を目指していきたいと思います」。

道の後継者育成は、一朝一夕にできるものではありません。大教会、上級、所属教会がお互いに心と力を合わせ、情報を提供し合って、一人ひとりを育てていく努力が必要でしょう。今後も、きめ細やかに、一手一つに、若年層育成に心を砕いていきましょう。

②教会長子弟育成プロジェクトの推進

教会長子弟の細やかな丹精を

教会長子弟育成プロジェクトがご本部から発表され、はや３年が経ちました。芦津大教会も、「教会長子弟育成者研修会」を皮きりにプロジェクトをスタートさせてから１年半が経ちました。３カ年の真ん中を過ぎた今、育成する側が心がけるべきことと、子弟に対するはたらきかけについて、改めて確認します。

教会長夫妻が心掛けること

①分かりやすい言葉で伝える

教会長子弟育成において何より重要なのは、教会長夫妻が、わが子や孫に「信仰を伝える」意識と熱意を持つことです。

教会長夫妻で、子供や孫に信仰を伝えようと思わない人はいません。しかし、思ったように伝わっていないケースもあります。例えば、「親の背中を見て子供は育つ」からと、ただ見せるだけで大切な部分を説明しなかったり、頭ごなしの態度や言葉でしか伝えていなかったり、そんなケースはないでしょうか。

信仰の喜びを伝えるために、親が背中を見せることはもちろん大切ですが、信仰する意味を「分かりやすい言葉」で伝える努力も欠かしてはなりません。近年、私たちを取り巻く環境は劇的に変化し、以前とは考えられないほど大量の情報と、多様な価値観の中で、子供たちは育っていきます。そうした中では、これまでのやり方では充分に伝えられないこともあるでしょう。

そのためにも、お道の素晴らしさや有り難さを、子弟たちが理解できるよう、「分かりやすい言葉」「理解しやすい言葉」で諭し、伝えていく工夫や努力が、今は必要とされています。

②教会生活の喜びを伝える

教会長夫妻といえども、日々の出来事をすぐに喜びにかえることができないこともあるでしょう。親が暗い雰囲気を出していると、子供たちは敏感にそれを察してしまい、教会に対する負のイメージを植え付けることにもなりかねません。

しかし、日常の中に「喜びを見出そう」という親の姿勢も、子供たちは見ています。日々の出来事の中の小さな喜びを拾い、子供たちの前で語ること。その繰り返しが、「たんのうの喜び」を子供たちに伝えることになるのではないでしょうか。

教会長子弟への働きかけ

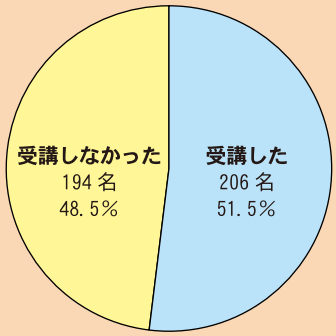
①既存の行事への参加を促す

ご本部、直属教会、教区などで開催される各行事への参加は、子弟育成の上で大変有効な手段です。行事に参加する子弟は、ある程度、お道に対して肯定的な意識を持っている言えるでしょう。

しかし、「後継者講習会」に、芦津大教会の教会長子弟の約半分が参加していない現状（左グラフ参照）を見ると、こうした行事に参加していない子弟が多くいるのも事実です。

大切なのは、「参加していない子弟に対する働きかけ」。参加しなかった理由はさまざまですが、中には「行事の存在を知らなかった」というケースもあります。

教会長子弟の「後継者講習会」受講率



教会には性別、立場、年代などに適合した行事がたくさんあります。行事に参加すれば、教えに触れることもでき、同世代の仲間の姿勢や考え方などから得られるものもあるでしょう。

行事参加の声掛けは、子弟に信仰を伝えるための大切な手段です。単なる行事の案内ではなく、「どうしてもこの行事に参加してほしい」という思いを込めて、声を掛けていきましょう。

▲後継者講習会

②管内学校への進学

おぢばにある管内の学校へ進学を促すことも、教会長子弟育成の上で重要です。

管内学校で学ぶ一番の意義は、「親神様・教祖のおられるおぢばで生活すること」。それによって、「おぢばは帰る所＝故郷」という実感を得ることができます。

また、お道の信仰を語り合える同年代の仲間ができることも大きな点です。系統や地域を超えたお道の仲間の存在は、他の学校ではなかなか得難い、将来の貴重な宝となります。

たとえ管内学校への進学が難しくても、「学生生徒修養会」（高校の部、大学の部、高校卒業生コース）がありますので、参加を促しましょう。

▲学生生徒修養会・高校の部

育成の現場から

お話し会・こども会を開催　――芦ノ郷分教会

芦ノ郷分教会（榎理恵子会長・大阪府大東市）は、6月30日、教会でお話し会・こども会を開催しました。

午前中のお話し会では、芽愛助産院院長・木村厚子先生（高安大教会ようぼく）が「いのちというキセキ」をテーマにお話。子育て中の親を対象に、親のあり方について細やかにお話しくださいました。

昼食はみんなで流しそうめん。午後からのこども会では、折り紙やお絵かき、七夕飾り作成などの室内遊びを楽しみました。

榎康紀さん（教会長後継予定者）は、「昨年より毎月1度、教会でこども会を実施しています。その中で、6月は青年会の布教強調月間なので、『教会初参拝』を意識して、親御さんたちにも教会に来てもらう機会を作ろうと思い、お話し会を企画しました」と語ります。当日の参加者は、大人15名、子供20名。その内、初参拝者は、大人3名、子供5名でした。

育成 information

育成部

11月25日㊌
管内学生親睦会・保護者交流会

■日時　11月25日　午後6時より（約2時間）
■場所　芦津詰所　5階会議室
■対象　おぢばの管内学校に通う教会長子弟とその保護者
※学校やクラブの都合上、子弟が参加できない場合、保護者だけでもご参加ください
■内容　会食（交流会）

学用品リユースのお願い

天理高校・教校学園高校を卒業された方で、制服や学校指定のかばんなど、今後使う予定のない物がございましたら、進学を希望される学生に利用していただきますので、お譲りいただきたいと思います。できるだけきれいな状態で、詰所事務所までお届けくださいますよう、よろしくお願いします。

詰所主任

青年会

11月1日㊍～24日㊏
青年会ひのきしん隊

■集合　10月31日　詰所集合
当日に来る人は、午前8時までに詰所へ来てください
■入隊お供え　5,000円
■携行品　合宿に必要な物、筆記用具、保険証、作業用ベルト、にをいがけ用のカッター・ネクタイ・スラックス、白くつ下

青年会

11月16日㊎～18日㊐
ひのきしん3日隊

■入隊お供え　1,000円
■16日夕方4時30分までに詰所に集合してください。解散は18日午前中の予定。
3日間参加できる方のみが対象となります。
詳細は、青年会芦津分会までお問い合わせください。

人を育てる「座右の書」

人を導くために参考となる書籍を紹介します

●いい人生は「ありがとう」がつくる／斎藤茂太　著
●新講社 WIDE SHINSHO　●1,080円（税込）

「ありがとう」のひとことで、相手も自分もやわらかい、あたたかな心持ちになる。それがこの言葉のちからでしょう。

精神科医として、またエッセイストとして長年活躍している斎藤茂太氏。「ありがとう」は人間関係の潤滑油であり、「ありがとう」と口に出して相手に伝えると、相手の気持ちが分かり、人間関係もよくなると説きます。人を導く者が考えるべき「言葉」について、とても参考になる書です。

①芦津　道の後継者のつどい　②春の育成行事
あしつ 育成だより 8
立教181年10月23日発行
編集 / 天理教芦津大教会育成部